

【開学 100 周年記念事業】 名城大の研究者 20 人、メッセナゴヤに立つ 「リサーチフェア」初の外部展示会進出

来場者 5 万人規模の展示会に、理工・農・薬・経済の 4 学部から 20 の研究テーマを出展。5 つの社会課題ゾーンで移乗サポートロボットの体験や花酵母パンの試食などを展開。20 人の研究者による研究ピッチや、直接対話を通じて地域産業との連携創出を目指します。

開学 100 周年を迎えた名城大学（名古屋市天白区）は、2026 年 11 月 11 日（水）～13 日（金）にポートメッセなごや（名古屋市港区）で開催される日本最大級の異業種交流展示会「メッセナゴヤ 2026」に出展し、「名城大学リサーチフェア 2026」を開催します。

本フェアでは、企業の皆さまが抱える課題の解決や、新たな事業の創出につながる共同研究や技術相談の機会を提供します。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。また、報道関係者の皆さまも、ぜひ取材にお越しください。

【本展示の 3 つのポイント】

1. 外部展示会（メッセナゴヤ）の場へ初出展

開学 100 周年記念事業として、全学の研究テーマの中から、産業界の課題に直結する 20 テーマを選定。5 万人規模の来場者が集まる場へ大学自らが出向き、研究成果を直接発信します。

2. 社会課題を起点とした 5 つの展示ゾーン

企業の課題や困りごとを起点に、解決につながる研究を 5 つのゾーンで紹介。各ゾーンにインフォグラフィックスパネルを配置し、課題解決や新事業創出への可能性をわかりやすく伝えます。

3. 研究成果を体験し、研究者と対話を通じて、産官学連携につなぐ

① 体験型展示

移乗サポートロボット体験や名城大学発ベンチャーの花酵母パン（株式会社花酵母 factory 協力）の試食など、研究成果を「見て、触れて、体験」できる場を提供します。

② 研究ピッチ（ブース内ステージ）

薬学部の森和俊教授をはじめとする 20 人の研究者が順次登壇し、研究の核心を来場者にわかりやすく伝え、対話のきっかけをつくります。

③ URA による産官学連携相談

会期中、ブース内にて URA（リサーチ・アドミニストレーター）が常駐し、来場者の課題に合った研究者・研究テーマを案内します。

■ 開催概要

イベント名称	開学 100 周年記念事業「名城大学リサーチフェア 2026」
出展展示会	メッセナゴヤ 2026（日本最大級の異業種交流展示会）
会期	2026 年 11 月 11 日（水）～13 日（金） 3 日間
会場	ポートメッセなごや 第 1 展示館 名城大学ブース番号 D-61 （愛知県名古屋市港区金城ふ頭 3 丁目 2-1）
参加費	無料（メッセナゴヤ 2026 への入場には事前登録が必要です）※
主な対象	企業の技術者・経営者、自治体関係者、同窓生 等
参加教員	20 人（理工・農・薬・経済の 4 学部）
ウェブサイト	https://www.meijo-u.ac.jp/event/detail_33698.html 
企画概要	チラシ 1 参照
研究テーマ一覧	チラシ 2 参照
研究ピッチ スケジュール	チラシ 3 参照
主催 問い合わせ	名城大学 学術研究支援センター E-mail : sangaku@ccml.meijo-u.ac.jp TEL : 052-838-2036

※来場登録について

メッセナゴヤ 2026 の来場には事前登録が必要です（無料）。

詳細は公式ウェブサイトをご確認ください。

メッセナゴヤ 2026 公式サイト : <https://www.messenagoya.jp/>



■ リサーチフェアの沿革と今年のねらい

「名城大学リサーチフェア」は、本学の研究力と研究シーズを学外に公開し、新たな産官学連携を生み出すことを目的に 2019 年より開始しました。近年はオンライン特設サイトや 3D バーチャル空間を活用し、2025 年度には 102 テーマを出展するなど規模を拡大しました。

開学 100 周年の節目となる 2026 年度は、初めて外部展示会（メッセナゴヤ 2026）で実施します。

多様な来場者との接点を創出し、体験型展示や研究ピッチを通じた直接対話で技術相談や共同研究へつなげ、地域産業とともに歩む大学として本学の研究力を広く発信します。

■ メディア関係者のみなさまへ

申込方法：取材していただける場合は、11 月 6 日（金）15:00 までに sangaku@ccml.meijo-u.ac.jp へメールでお知らせください。タイトルは「リサーチフェア 2026／社名」とし、本文には ①部署名 ②担当者名 ③電話番号 ④参加人数を明記ください。

取材要領：入場に際し、メッセナゴヤ 2026 公式サイトで事前登録をお願いします。当日は、腕章着用をお願いします。駐車場の用意はありませんので、公共交通機関をご利用ください。



MEIJOth
MEIJO UNIVERSITY 1926 - 2026

開学100周年記念事業
名城大学リサーチフェア2026

メッセナゴヤ2026に
出展します



品質向上 負担軽減 新製品開発 でお困りの皆さまへ

ビジネスの課題、 名城大学と解決しませんか？

現場で、こんな課題を抱えていませんか？

製造の現場で

品質向上 見逃していた異物、
見つけられないか？



↓

異物検知技術で、
製造ラインの
品質向上へ



※本装置(AIと機械振動を利用した異物検知システム)

介護の現場で

負担軽減 人を抱き上げる負担を
減らせられないか？



↓

移乗サポートロボットで、
介護負担軽減



地域づくりの現場で

新製品開発 地域資源を活かして
新商品を作れないか？



↓

花酵母など、
地域の微生物を活かし、
新商品開発へ



※地域の特産品 ※野生の酵母を発見！ ※商品開発へ！

まずは、現場の課題をお聞かせください！

研究者とURA(産学連携スタッフ)が、
課題に合った研究をご案内します
メッセナゴヤ会場での相談は…

名城大学の
ブース
D-61
(6・小間)

21st 日本最大級
異業種交流展示会

メッセナゴヤ2026

2026 11/11(水) - 13(金)
開場時間 10:00~17:00

ポートメッセなごや
第一展示館

名城大学ブースの見どころ

研究ピッチ

細胞・タンパク質研究の世界的第一人者
森 和俊教授も登壇*
20名の研究者が研究の核心を紹介

※森 和俊教授 研究ピッチ
11/11(水) 11:00~
11/12(木) 11:00~
詳細は右上のQRコードから

体験型展示

研究成果を見て、触れて、体験

- 移乗サポートロボット
- 花酵母パンの試食

5つの
社会課題ゾーン

20の研究テーマが集結。
現場の課題に合う研究が見つかる





開学100周年記念事業

名城大学リサーチフェア2026

5つの社会課題ゾーン×20の研究テーマ

中部から世界へ、創造型実学の名城大学

開学100周年の今年、名城大学の研究者がメッセナゴヤに集結。
産業界の課題に直結する20の研究テーマを紹介します

No. 研究のみどころ	
ものづくり・エネルギー・環境 ① エネルギー・環境	製造業の現場を強くする 品質を高めたい。資源やエネルギーを有効に使いたい
①-1 ラインを止めずに、異物を見抜く ①-2 低温で、硬い膜をつくる ①-3 微生物が、眠る金属を起こす ①-4 経済効果を、数字に変える	
少子高齢化・地域・モビリティ ② 地域・モビリティ	人手不足に挑み、地域の未来をつくる 介護の負担を減らしたい。ロボットを現場で活かしたい
②-1 介護サポートロボ、暮らしで実証 ②-2 ロボットに、言葉で伝える ②-3 単眼カメラで、空間を読む ②-4 自動車依存の街を、歩ける街に	
創薬・ヘルスケア ③ 創薬・ヘルスケア	健康と医療の未来をつくる 新しい治療法や、薬の評価につながる研究を知りたい
③-1 細胞は、自分を治せる ③-2 幻覚なしで、うつを治す ③-3 電離ガス止血 ③-4 動物実験なしで、薬を試す	
防災・インフラ・宇宙 ④ インフラ・宇宙	安全な暮らしの未来をつくる 丈夫で軽い構造をつくりたい。自社技術を宇宙分野へ広げたい
④-1 薄くても、壊れない壁をつくる ④-2 折り紙が建築になる ④-3 民間技術を、宇宙で試す ④-4 硬い金属・複合材を、しなやかに	
食と農・バイオ ⑤ 食と農・バイオ	食と農の未来をつくる 食品の付加価値を高めたい。農業や畜産の資源を活かしたい
⑤-1 地域資源を、発酵で宝に ⑤-2 稲わらが、農薬に変わる ⑤-3 未利用資源から、高機能卵へ ⑤-4 分子の形が、食の吸収を変える	

名城大学だからできること

開学100周年、
幅広い「研究力」を企業の力に

10学部・約500名の研究者が、文系・理系の枠を超えて課題解決に取り組みます

世界レベルの研究

- 青色LED
- リチウムイオン電池
- カーボンナノチューブ
- 生命科学(小胞体ストレス応答)

NanoTerasu
(次世代放射光施設)を

企業の研究開発に

東海地区の私立大学で唯一参画。材料・食品・医薬など企業の研究開発を支援します

東海エリア私大
唯一の参画機関

産学連携のご相談・お問い合わせ

名城大学 学術研究支援センター

TEL:052-838-2036 sangaku@ccml.meijo-u.ac.jp



NanoTerasuでの実験(仙台)

名城大学リサーチフェア 2026

5つの社会課題ゾーン × 20の研究テーマ 一覧

メッセナゴヤ 2026 ブース D-61 | 2026年11月11日(水)～13日(金)

※No.はブース内の展示パネル番号に対応

No.	名前 所属	発表タイトル	ピッチ日
① ものづくり・エネルギー・環境 ～製造業の現場を強くする～			
①-1	佐伯 壮一 教授 理工学部・メカトロニクス工学科	AIと機械振動を利用した異物検査システムと生産ライン設計導入	12日
①-2	太田 貴之 教授 理工学部・電気電子工学科	低温でも、高品質な薄膜・コーティングを実現：大電力パルススパッタ	12日
①-3	細田 晃文 教授 農学部・生物環境科学科	眠る金属を微生物で資源へー金属回収プロセスのグリーン化ー	13日
①-4	加藤 真也 教授 経済学部・産業社会学科	「経済効果」が企業の武器になるー事業の地域貢献を可視化するー	13日
② 少子高齢化・地域・モビリティ ～人手不足に挑み、地域の未来をつくる～			
②-1	加藤 健治 准教授 理工学部・メカトロニクス工学科	介護を支えるロボットと未来の住まい	13日
②-2	大原 賢一 教授 理工学部・メカトロニクス工学科	「使いたい」を「使える」にーサービスロボット運用管理の研究	13日
②-3	田崎 豪 准教授 理工学部・電気電子工学科	低コスト自律移動ロボットによる自動搬送・巡回の実現	12日
②-4	中村 一樹 教授 理工学部・社会基盤デザイン工学科	擬似体験から考えるモビリティとウォークアブルが共存する街	11日・12日
③ 創薬・ヘルスケア ～健康と医療の未来をつくる～			
③-1	森 和俊 教授 薬学部・薬学科	タンパク質品質管理機構の解明から疾患治療戦略への展開	11日・12日
③-2	衣斐 大祐 准教授 薬学部・薬学科	非幻覚性サイケデリックスの創製と新規抗うつ薬への応用	11日
③-3	榊田 創 教授 理工学部・電気電子工学科	低侵襲電離ガス止血機器に関する研究	13日
③-4	輪島 文明 准教授 薬学部・薬学科	ヒトで起こる感染症を、ヒトの組織で評価する	13日
④ 防災・インフラ・宇宙 ～安全な暮らしの未来をつくる～			
④-1	武藤 厚 教授 理工学部・建築学科	高耐力・高耐久の薄肉コンクリート系パネルの開発	12日
④-2	張 天昊 准教授 理工学部・建築学科	小さく運び、大きく広げる：折り紙による展開構造	11日
④-3	宮田 喜久子 准教授 理工学部・交通機械工学科	新たな視点による技術の応用展開：小型宇宙機による宇宙利用	11日
④-4	仙場 淳彦 准教授 理工学部・交通機械工学科	しなやかな構造で切り拓く航空宇宙・先端技術	12日
⑤ 食と農・バイオ ～食と農の未来をつくる～			
⑤-1	加藤 雅士 教授 農学部・応用生物化学科	未利用バイオマスを変え宝にする発酵科学	11日
⑤-2	伊藤 昌文 教授 理工学部・電気電子工学科	農業廃棄物（稲わら等）を資源に変えるプラズマ技術	11日
⑤-3	林 義明 教授 農学部・附属農場	昆虫を用いた食品副産物処理と飼料生産による高機能鶏卵の創出	13日
⑤-4	本田 真己 准教授 理工学部・教養教育	機能性成分のシス-トランス異性化による高付加価値化への挑戦	13日

チラシ3：研究ピッチ スケジュール

名城大学リサーチフェア 2026 研究ピッチ スケジュール

メッセナゴヤ 2026 ブース D-61 付近ピッチスペース

11月11日(水)

※No.はブース内の展示パネル番号に対応しています。★は、細胞・タンパク質研究の世界的第一人者の森 和俊教授の特別枠です
※同じ発表者が複数回登場する場合(再)、内容は同じです。ご都合のよい時間帯にお越しください。

時間	ゾーン	No.	発表者	発表タイトル
11:00-11:30 ★	創業・ヘルスケア	③-1	森 和俊 教授 薬学部・薬学科	タンパク質品質管理機構の解明から疾患治療戦略への展開
11:30-11:50	少子高齢化・地域・モビリティ	②-4	中村 一樹 教授 理工学部・社会基盤デザイン工学科	擬似体験から考えるモビリティとウオーカブルが共存する街
--- 昼休憩 ---				
12:50-13:10	創業・ヘルスケア	③-2	衣斐 大祐 准教授 薬学部・薬学科	非幻覚性サイケデリックスの創製と新規抗うつ薬への応用
13:10-13:30	防災・インフラ・宇宙	④-2	張 天昊 准教授 理工学部・建築学科	小さく運び、大きく広げる：折り紙による展開構造
13:30-13:50	食と農・バイオ	⑤-2	伊藤 昌文 教授 理工学部・電気電子工学科	農業廃棄物（稲わら等）を資源に変えるプラズマ技術
13:50-14:10	食と農・バイオ	⑤-1	加藤 雅士 教授 農学部・応用生物化学科	未利用バイオマスを宝に変える発酵科学
14:10-14:30	防災・インフラ・宇宙	④-3	宮田 喜久子 准教授 理工学部・交通機械工学科	新たな視点による技術の応用展開：小型宇宙機による宇宙利用
14:30-14:50(再)	創業・ヘルスケア	③-2	衣斐 大祐 准教授 薬学部・薬学科	非幻覚性サイケデリックスの創製と新規抗うつ薬への応用
14:50-15:10(再)	防災・インフラ・宇宙	④-2	張 天昊 准教授 理工学部・建築学科	小さく運び、大きく広げる：折り紙による展開構造
15:10-15:30(再)	防災・インフラ・宇宙	④-3	宮田 喜久子 准教授 理工学部・交通機械工学科	新たな視点による技術の応用展開：小型宇宙機による宇宙利用
15:30-15:50(再)	食と農・バイオ	⑤-1	加藤 雅士 教授 農学部・応用生物化学科	未利用バイオマスを宝に変える発酵科学
15:50-16:10(再)	食と農・バイオ	⑤-2	伊藤 昌文 教授 理工学部・電気電子工学科	農業廃棄物（稲わら等）を資源に変えるプラズマ技術

名城大学リサーチフェア 2026 研究ピッチ スケジュール

メッセナゴヤ 2026 ブース D-61 付近ピッチスペース

11月12日(木)

※No.はブース内の展示パネル番号に対応しています。★は、細胞・タンパク質研究の世界的第一人者の森 和俊教授の特別枠です
※同じ発表者が複数回登場する場合〔再〕、内容は同じです。ご都合のよい時間帯にお越しください。

時間	ゾーン	No.	発表者	発表タイトル
11:00-11:30 ★	創業・ヘルスケア	③-1	森 和俊 教授 薬学部・薬学科	タンパク質品質管理機構の解明から疾患治療戦略への展開
11:30-11:50	ものづくり・エネルギー・環境	①-2	太田 貴之 教授 理工学部・電気電子工学科	低温でも、高品質な薄膜・コーティングを実現：大電力パルススパッタ
--- 昼休憩 ---				
12:50-13:10	少子高齢化・地域・モビリティ	②-3	田崎 豪 准教授 理工学部・電気電子工学科	低コスト自律移動ロボットによる自動搬送・巡回の実現
13:10-13:30	防災・インフラ・宇宙	④-4	仙場 淳彦 准教授 理工学部・交通機械工学科	しなやかな構造で切り拓く航空宇宙・先端技術
13:30-13:50	少子高齢化・地域・モビリティ	②-4	中村 一樹 教授 理工学部・社会基盤デザイン工学科	擬似体験から考えるモビリティとワークプルが共存する街
13:50-14:10	防災・インフラ・宇宙	④-1	武藤 厚 教授 理工学部・建築学科	高耐力・高耐久の薄肉コンクリート系パネルの開発
14:10-14:30	ものづくり・エネルギー・環境	①-1	佐伯 壮一 教授 理工学部・メカトロニクス工学科	AIと機械振動を利用した異物検査システムと生産ライン設計導入
14:30-14:50〔再〕	防災・インフラ・宇宙	④-4	仙場 淳彦 准教授 理工学部・交通機械工学科	しなやかな構造で切り拓く航空宇宙・先端技術
14:50-15:10〔再〕	少子高齢化・地域・モビリティ	②-3	田崎 豪 准教授 理工学部・電気電子工学科	低コスト自律移動ロボットによる自動搬送・巡回の実現
15:10-15:30〔再〕	防災・インフラ・宇宙	④-1	武藤 厚 教授 理工学部・建築学科	高耐力・高耐久の薄肉コンクリート系パネルの開発
15:30-15:50〔再〕	ものづくり・エネルギー・環境	①-1	佐伯 壮一 教授 理工学部・メカトロニクス工学科	AIと機械振動を利用した異物検査システムと生産ライン設計導入
15:50-16:10〔再〕	ものづくり・エネルギー・環境	①-2	太田 貴之 教授 理工学部・電気電子工学科	低温でも、高品質な薄膜・コーティングを実現：大電力パルススパッタ

名城大学リサーチフェア 2026 研究ピッチ スケジュール

メッセナゴヤ 2026 ブース D-61 付近ピッチスペース

11月13日(金)

※No.はブース内の展示パネル番号に対応しています。

※同じ発表者が複数回登場する場合(再)、内容は同じです。ご都合のよい時間帯にお越しください。

時間	ゾーン	No.	発表者	発表タイトル
11:00-11:20	食と農・バイオ	⑤-4	本田 真己 准教授 理工学部・教養教育	機能性成分のシス-トランス異性化による高付加価値化への挑戦
11:20-11:40	ものづくり・エネルギー・環境	①-4	加藤 真也 教授 経済学部・産業社会学科	「経済効果」が企業の武器になる ― 事業の地域貢献を可視化する ―
11:40-12:00	少子高齢化・地域・モビリティ	②-1	加藤 健治 准教授 理工学部・メカトロニクス工学科	介護を支えるロボットと未来の住まい
12:00-12:20	少子高齢化・地域・モビリティ	②-2	大原 賢一 教授 理工学部・メカトロニクス工学科	「使いたい」を「使える」にーサービスロボット運用管理の研究
--- 昼休憩 ---				
13:00-13:20	ものづくり・エネルギー・環境	①-3	細田 晃文 教授 農学部・生物環境科学科	眠る金属を微生物で資源へー金属回収プロセスのグリーン化ー
13:20-13:40	創薬・ヘルスケア	③-3	榊田 創 教授 理工学部・電気電子工学科	低侵襲電離ガス止血機器に関する研究
13:40-14:00	創薬・ヘルスケア	③-4	輪島 文明 准教授 薬学部・薬学科	ヒトで起こる感染症を、ヒトの組織で評価する
14:00-14:20	食と農・バイオ	⑤-3	林 義明 教授 農学部・附属農場	昆虫を用いた食品副産物処理と飼料生産による高機能鶏卵の創出
14:20-14:40(再)	少子高齢化・地域・モビリティ	②-2	大原 賢一 教授 理工学部・メカトロニクス工学科	「使いたい」を「使える」にーサービスロボット運用管理の研究
14:40-15:00(再)	ものづくり・エネルギー・環境	①-3	細田 晃文 教授 農学部・生物環境科学科	眠る金属を微生物で資源へー金属回収プロセスのグリーン化ー
15:00-15:20(再)	創薬・ヘルスケア	③-3	榊田 創 教授 理工学部・電気電子工学科	低侵襲電離ガス止血機器に関する研究
15:20-15:40(再)	創薬・ヘルスケア	③-4	輪島 文明 准教授 薬学部・薬学科	ヒトで起こる感染症を、ヒトの組織で評価する
15:40-16:00(再)	食と農・バイオ	⑤-3	林 義明 教授 農学部・附属農場	昆虫を用いた食品副産物処理と飼料生産による高機能鶏卵の創出